

船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	11月22日（月）	長崎県	漁船	火災
	11月22日（月）	長崎県	その他	運航不能（機関取扱不注意）
	11月23日（火）	福岡県	貨物船	単独衝突
	11月24日（水）	佐賀県	プレジャーボート	浸水
	11月24日（水）	佐賀県	プレジャーボート	浸水
	11月24日（水）	福岡県	プレジャーボート	浸水
	11月24日（水）	山口県	貨物船	衝突
	11月24日（水）	山口県	作業船	衝突
	11月24日（水）	長崎県	プレジャーボート	運航不能（推進器障害）
	11月26日（金）	福岡県	プレジャーボート	運航不能（機関故障）
	11月28日（日）	大分県	漁船	乗揚
	11月28日（日）	福岡県	貨物船	単独衝突

2週間で2件の火災が発生！！

【問合せ先】
 第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川
 安全対策調整官 川部
 Tel：093-321-2931（内線2640）

【事事故例】

- ①令和3年11月22日、無人係留中の漁船から出火、地元消防団等の消火活動により沈火しました。
- ②令和3年11月17日、遊漁船（乗客4名、乗組員4名）が、漁場向け航行中、機関室入口より白煙が見えたため機関室内を確認したところ、火災を発見、乗組員により消火活動を行ったが、火勢が収まらず、救助に来た僚船により乗客及び乗組員は救助された。遊漁船にあっては到着した巡視艇の放水消火により沈火したものの、曳航準備中に浸水が始まり、沈没しました。



①火災漁船の状況



②火災遊漁船の状況

主な船舶火災の原因

1. 電気系統（火災原因ワースト1！）

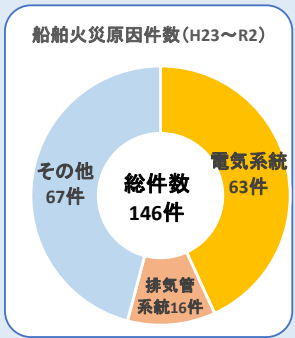
- ・電線の劣化等によりショートや漏電が起き、周辺の可燃物に引火。
- ・バッテリーや配電盤の端子の緩みにより発熱、バッテリーの水素ガス等に引火。
- ・コンセントやプラグとの隙間に溜まった埃等が原因で発火。

2. 排気管系統

- ・燃料や潤滑油が高温の機関室内で漏れると排気管の熱や少しの火花で引火。
- ・ウエス等が高温の排気管に付着し発火。
- ・冷却装置の故障によりオーバーヒートし排気管被覆材等が発火。

3. 暖房器具・調理器具等

- ・ストーブやガスコンロ等を使用する際、周囲に可燃物があると発火。



火災が起きてしまったら

- ①火元を風下にしましょう。
- ②機関室火災の場合は、エンジンを停止し、機関室通風機も停止しましょう。（空気（酸素）の供給を止め延焼を遅延させ、また、消火器の有効性を高めます。）
- ③機関室内が無人であることを確認し機関室給気口を濡らしたタオル等で塞ぐことも有効です。
- ④可能であれば燃料コックを閉めて燃料の供給を遮断しましょう。
- ⑤消火活動と同時に救助要請（118番等）を行いましょう。
- ⑥消火不可能な場合は、救命胴衣を必ず着用して風上側に退船しましょう。

詳しくは、日本小型船舶検査機構「小型船舶の火災爆発事故防止のために」をご確認ください。

https://jci.go.jp/jikomanual/pdf/kasai_bakuhatsu.pdf

